

平成29年度 自己評価及び学校関係者評価書

平成30年(2018年)3月14日
市立札幌開成中等教育学校

1 本年度の重点目標

課題探究的な学習に向き合う環境を整える

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
重点目標	10の学習者像を意識した日常的な取組に努め、MYP認定校とDP候補校の実現を目指し取り組むことができたか。	A	全ての教育活動において生徒が10の学習者像とのつながりを意識できる取り組みを更に工夫していく。そのために基礎期・充実期の具体的な指導内容の共有を図る。DP認定校に向けた手立ての共有化を図る。	A	A
	SGHとSSHへの取り組みを通して、編入生の教育課程の充実を図ることができたか。	A	今後もSELFの理念をもとに編入生の教育課程の充実を図っていく。SSHの指導体制の構築と研究開発の具体的内容を構築していく。SGHとIBやSSHとの整合性を図るとともに相乗効果を生むような指導体制を整える。	A	A
	重点目標の内容は、学校や生徒の実態を踏まえた適切な設定となっているか。	A	編入生・新入生の教育課程が共存している現状から、3年後に向けてIBのフレームにスムーズに移行できるような具体的な準備を進める。	A	A
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・適切だと思います。IBプログラムの創設期であり、着実な進展を期待します。 ・10の学習者像がすべての人々(生徒・教師・保護者)に浸透するには時間を要すると思いますが、意識の持ち方持たせ方は改善策にあるように日々の小さな積み重ねが大切であると思います。3年生が4年生と共にSSHプログラムに参加できるようになり、異学年、前後期生の繋がりが感じられ互いに刺激になれば良いと思います。 ・目標達成のため学校、保護者、地域と連携し生徒の教育目標の達成に努めて下さい。 				
教育課程・学習指導	【課題探究】「なぜ、どうして」を大切に、生徒自身が学びの主人公となる「課題探究的な学習」を充実することができたか。	A	校内での同一教科だけでなく他教科の授業交流により、課題探究的な学習の推進に努めるとともに、生徒の学習への主体性を育む課題設定や評価の在り方についての研究・研修に努める。	A	A
	【専門性】理数英の専門学科の特色を生かした教育課程を編成することができたか。	A	外部団体の協力を得ながら、SSH、SGHの諸活動の充実をはかるとともに、英語のコミュニケーション能力の向上を目指した教育課程の編成に努める。	A	A
	【バランス】知徳体のバランスのとれた教育課程となっているか。	A	道徳・総合的な学習の時間・特別活動の横断的カリキュラムとして取り組んでいる「ところからたの時間」を効果的に配置するとともに、自らの健康維持や体力向上に生徒が主体的に取り組むことができるような環境を整える。	A	A
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・適切だと思います。知徳体の教育は学校だけでは限界があると思います。 ・理数英の専門性が大学受験に役立てられることのみならず、生涯に渡って知識技能の礎となる指導育成に期待します。 ・生徒がバランスのとれた教育を受け伸びていく事が大事だと思います。 				
生徒指導・教育相談	【育てたい生徒像】生徒がTPOに応じたふさわしい対応ができるように支援することができたか。	A	生徒が自ら考え、行動できるようになることが肝要であると考え。引き続き、基礎期・充実期・発展期の段階的な発達課題を各学年で共有しながら、指導・支援を図ることができるよう取り組んでいく。	A	A
	【異年齢交流】学校行事や生徒会活動を通して幅広い異年齢の交流をはかり、生徒の自主性や協調性を育むことができたか。	A	今年度からは学校祭や市立総文体に前期生の参加するなど、生徒会や放課後活動に積極的な参加を促した。引き続き、より一層の学年を超えた異学年交流が行えるような行事や活動を生徒主導で検討していく。また、「クローバーメイト」などを通して学年の枠にとらわれない活動の充実を図るよう支援する。	A	A
	【教育相談】教育相談の充実を図ることができたか。	B	引き続き、教育相談体制を整え、生徒や保護者が相談しやすいような学校環境、人的環境づくりに努める。相談室だよりや懇談会等で情報発信し、保護者も相談しやすい体制を整える。	B	B
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・適切だと思います。保護者の理解、協力を得る苦労があると思います。 ・「相談室だより」には各教員の考えや思いが載せてあり、教員への理解、安心感、期待に繋がった。また、相談日の日程、相談方法があり、周知されつつあるが、継続が必要と思われます。 ・学校行事、生徒会活動を充実させ、生徒の生活指導に役立てる事が必要だと思います。 				
（キャリア探究教育）	【主体的な取組】生徒が自らの生き方を主体的に考え将来を切り拓く力を養うことができるよう、進路探究の充実を図ることができたか。	A	進路探究的な学習を生徒が主体性を持って取り組むことができる環境づくりに努めると共に、基礎期・充実期・発展期の各期における到達目標を明確にしたカリキュラムを来年度構築する。	A	A
	【自己理解】体験活動を通して自分を知り、自立を目指すことができるような取組ができたか。	A	自ら計画し、行動した結果を自らが振り返り、次の行動に活かせるような機会を増やし、自己肯定感や自己効力感の向上につながるような取組を充実させる。	A	A
	【社会とのつながり】変化の激しい変わりゆく社会で自らどういった役割を果たせるかを生徒自身が意識できるような取組ができたか。	B	SA(サービスマインドアクション)やフューチャージョブセッション及びリサーチ型企業研修における取組を通して、社会とのつながりをマクロの視点や身近な視点で捉えられるような効果的な支援の方法を検討していく。	B	B
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・適切だと思います。主体性は重要な事項であり、個人差への対応に考慮する必要があると思います。 ・「自己理解」では保護者、教員は高く評価しているのに、生徒が低めであるのは自己肯定感を示せるような設問を工夫するのが良いと思います。 ・進路については一人ひとりが目標を持って学習していく事が大切だと思います。 				

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
保健・安全管理	【見守り体制】生徒の安心・安全・快適さを維持する環境を整えることができたか。	A	環境の整備に努め、更に、生徒相互で安心・安全な環境をつくり上げる取組を通して改善を図っていく。 また、よりきめ細やかな見守り体制の構築に努め、全校一斉メールの効果的な活用方法を検討していく。	A	A
学校関係者評価委員による意見	・適切だと思います。セキュリティ管理対策は今後も維持していただきたいと思います。				
組織運営	新入生と編入生が連携し、分掌業務を円滑に推進できたか。	B	現在の分掌構成や業務の進め方についての課題を整理し、より一層機能する組織運営を目指す。	A	A
学校関係者評価委員による意見	・適切だと思います。2校設置体制が解除され制限がなくなったが、その分課題も増えました。やはり1～6年という幅広い年齢集団を同時に育てる体制をつくるには時間を要すると思います。 ・日々の取組は大変ですがその積み重ね試行錯誤がまさに中等教育学校を形成することに繋がると思います。 ・学校、教職員、生徒が一つになり推進していくことが大事だと思います。				
研修	生徒・保護者・教員が課題探究的な学習を行うための環境整備を推進することができたか。	A	授業交流週間やその後のIC(研修会)を通して引き続き探究的な学習のあり方についての研究・研修に努めたい。ただ、研究・研修時間を確保することが年々難しくなっているため、業務削減で得た余裕でいつでも研究・研修ができるように教職員の学び環境を整えたい。	A	A
	研修等で得たIBプログラムやSGH、SSH等の情報を保護者・教員間で共有することができたか。	B	引き続き、保護者に対する情報発信に努めるとともに、校内においてはIC(校内研修会)の充実や各教科の指導計画や取組状況の共有化、職員室やIBセンターにある各種資料の積極的な活用に取り組む。なお、今年度は研究成果報告会を9月末に実施したことで、昨年以上に共有する機会を設けることができた。	A	A
学校関係者評価委員による意見	・適切だと思います。研修会・授業研究・実践交流はとても大切な事だと思います。 ・IBプログラムの開発、SSH、SGHとの連携は生徒の育成と同時に進めなければならないので、その内容や業務量は相当なものだと推察いたします。教員の心身の健康に留意して下さい。				
保護者・地域情報提供等の	入学を考えている児童・生徒に対し、必要な情報を適宜発信することができたか。	A	今年度実施した学校説明会等のアンケートでは、ほとんどの参加者から肯定的な回答を得ることができた。次年度以降も、今年度の要望を踏まえ、学校説明会等の内容を検討していく。	A	A
	学校だよりや学年だより、ホームページ、学年懇談会などを通じて、学校の様子がよくわかるように伝わってくる。	A	更により良いホームページの運用に努め、保護者・地域等へ学校の情報提供を進める取組をしていく。	A	A
学校関係者評価委員による意見	・適切だと思います。ホームページは外部からの学校を知る入り口となり得るので、適宜の更新は必要と思います。 ・各学年だより(不定期発行で構わないので)が見られると、互いの学年への理解、進級時の学習や取組の予測に繋がるのではないかと思います。				
境教備の育整環	タブレット端末や他のICT機器は、課題探究的な学習を行う上で効果的に活用されているか。	A	タブレット端末を始めとしたICT機器を効果的かつ継続的に活用できる環境整備に向け、さらなる研究・研修に努めるとともに、校内体制を整備する。	A	A
学校関係者評価委員による意見	・適切だと思います。とても良い事なので、今後ともタブレットの活用を進めて下さい。				